

小学校3年 『コノマチ☆リサーチ』を活用した、知識・技能の育成

川崎市立富士見台小学校 加藤 優子

【実践報告の概要】

新型コロナウイルス感染症の拡大により、児童の体験的な活動や協働的な活動に影響が出てきている。一方、川崎市ではGIGAスクール構想における機器や環境の整備が急速に進んでいる。こうした状況から、小学校3年生の社会科でNHK for Schoolの『コノマチ☆リサーチ』を活用し、活動の場面によって視聴方法を工夫した実践を行った。地域の様子について興味をもち、関わり合いながら学ぶことで、知識・技能の定着を図った。

【取組の具体】

1. 課題の設定

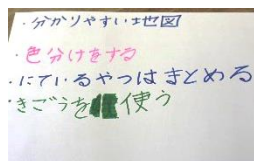
- ・1回目の学区探検で集めた情報をもとに、子どもたちが思い思いに地図を作る。
- ・自分たちが作った地図がわかりづらいことに気づき、問題点を話し合う。
- ・2回目の学区探検の後、『コノマチ☆リサーチ』～コノマチの地図をつくれ！～を一斉視聴し、自分たちが作った地図と比較することで課題を見出す。

2. 情報の収集

- ・番組をもとに「わかりやすい地図」とはどんな地図なのかを考え、クラス全体で意見を交流し地図作りのポイントを共有する。

3. 整理・分析

- ・番組視聴とクラスでの話し合いをもとにつくった「わかりやすい地図」の条件をもとに、学区探検で集めた地域の情報を整理する。



本クラスで作成した、
わかりやすい地図の条件

4. まとめ・表現

- ・整理した情報をもとに、グループで地図を作成する。
- ・必要に応じて番組を個別視聴し、地図作りのポイントや表し方を確かめる。
- ・全体でそれぞれの地図のよいところを見つけ合い、意見を交流して理解したことを振り返る。



【活用番組と実践者による番組分析】

『コノマチ☆リサーチ』第2回

「コノマチの地図をつくれ！」

- 本番組は身近な地域の様子を具体的に取り上げ、「まちのひみつ」に子どもたちが気づくことで、社会的なものの見方・考え方を身につけていくことができる。

【本実践における工夫点】

視聴方法の工夫

学習のはじめには、「わかりやすい地図」がどんな地図なのかをクラス全体で共有し、地図作りのポイントを話し合うために番組を一斉視聴した。話し合いを通して見出した共通の視点をもってグループ活動を行い、その中で1人1台の端末を活用して個別視聴をした。地図作りのポイントを振り返ったり、手本となる番組の中の地図やその中で使われている地図記号を確かめたりする際に、繰り返し視聴できるようにした。

【本実践の成果と課題】

- 地図にまとめるという経験がなかったために、どのような地図を作ればよいのかわからなかった児童も、番組の一斉視聴とクラスでの話し合いを通して共通のイメージをもって学習に取り組むことができた。
 - 必要に応じて個別視聴をすることで、地図作りのポイントをすぐに確かめることができ、技能の習得につながった。また、調査活動によって得た情報を適切に地図に表すことができたことによって、土地の利用と交通の様子とのつながりをとらえたり、自分のまちの地形の特徴をとらえたりすることにもつながった。
- ⇒今後も、子どもたちが目的意識をもって主体的に学習に取り組むことを大切に、その上で番組の効果的な活用の仕方を探っていきたい。